

「必修漏れ」 local rule

高校教育の「必修漏れ・ルール無視」の憂う現実、ラグビー界にとって「他山の石、以て玉を攻く（みがく）べし」です。ラグビー人気低迷し普及・発展の実が上らないのは「必修漏れ」が原因の一つではないかと思われます。プレーヤーも指導者も「ルール無視」はしていないと現状を直視しないで放言しているからです。

生徒が学ぶべき学習内容の最低基準を保障するための指導要領は、社会に出ても通用する人材を育成するという目的のもとにあります。特色ある学校づくりとして、必修と選択教科に分けられ、必修は卒業に必要な単位の約4割にすぎないのに、その必修の世界史等を教えないで教えたことにして報告していたのです。

温故知新。日本と世界の歴史を知ることが、過去から現在を考え未来を志向するために欠かせないもので、人間にとっての必修科目です。若者全てではないにしても、必修漏れのまま成人し、認識と意識不足を補充されないままの人達が社会の中心的存在となりリーダーになることを想像するだけでも不安が広がります。試験に勝つためという理由で善悪の判断を超えて、ルール違反を犯すという感覚の麻痺は大変恐ろしいことです。

ラグビー界の「必修漏れ」についても考察していきますと問題点が浮かびあがります。

基礎的身体づくりと、ラグビーの誕生から今日に至る歴史や、ルールとプレーの精神を含めての変遷の学習は必修教科課程です。競技を楽しむ姿勢や楽しみ方についての先人の思いや愛する心と、競技を育ててきた努力や喜びとその楽しさなどを知らないままに、勝負に陥没してしまっているプレーヤーが多いのは残念なことで、good bright interesting Rugby 創造に欠かせないものです。そして、目標とすべき善良なものを知らない人にそれを目指せと言っても実現不可能です。

スポーツは見て楽しい、プレーして楽しいという事実から始められます。ある時期に必修漏れのないように工夫・挿入されることによって、ルール違反に対する感覚の麻痺を正して、罰を科せられる反則を少なくして競技を楽しむ風土作りが第一です。周知徹底をはかるために協会が全てのチームが年に最低1回学習会をするように指示・リードすることも有効な方法と考えられます。まず指導者はテキストづくりと指導内容事前研究の中で一層認識が高められるでしょう。ラグビー憲章は指導資料の一つとして有用なものです。楽しむ意識が高まった所で、立ってプレーすることを留意して、生き生きと flair ラグビーを楽しむことを知れば、間違いなくラグビーは面白くなり、ラグビー人口が増加するという未来が開けてくるのです。

ラグビーの必修課程から明るい未来を生み出す道筋は簡単です。過去の良いものをとりだして知らしめます。そして考えさせ未来を作り出すのです。モデルとして先駆的に実行することが、国代表チームの存在価値・目的の半分なのです。そして各チームが努力するように話し説く努力がなされて、反則を減らしてゲームの流れをよくし楽しむことです。立っている意識足らずでは、継続とスピードのレベルアップはできません。試合がどちらが強いかがわかるだけでは、勝ち負け以外の大きな満足も収穫も得られません。勝利至上主義に陥没し、感覚が麻痺とてしまっているプレーヤーたちに、よいものを見本として見せるに値するチームやプレーを捜すのに苦労しなければならない現状は遺憾なことです。

2006.12.26

西川 義行